

未来への課題と展望

郡上市

「豊かな水資源」発信

世界農業遺産への道

清流長良川の水

郡上市は、岐阜県の中
央部に位置し、県内2位、
全国27位の広大な面積を
有する。清流長良川をは
じめとする大小24の1級
河川が市内を流れ、山林
の高い水源かん養能力に
よって美しく豊かな水に
恵まれている。

豊かな水資源や標高差
を生かし、おいしい米や

郡上市は、岐阜県の中
央部に位置し、県内2位、
全国27位の広大な面積を
有する。清流長良川をは
じめとする大小24の1級
河川が市内を流れ、山林
の高い水源かん養能力に
よって美しく豊かな水に
恵まれている。

しかし、少子高齢化で

人口が減少し、第1次産
業の後継者不足が課題と
なり、産業面のみならず

歴史・文化を育み、自然
環境を守っていくコミュ
ニティ活動への影響も
懸念されている。

このため、今回の世界
農業遺産への登録申請を
契機として、市民が地域
資源や生産活動・祭礼な
どの伝統行事を再認識
し、誇りを持って次世代
へつないでいくことや、
郡上市の魅力を発信する
ことで多くの人が郡上を
訪れ、定住化につながる
ことを願っている。



豊かな水資源や標高差を生かして栽培されている夏秋トマト
＝郡上市内

未来への課題と展望 県農村振興課



清流長良川の鮎は格別。鮎を求めて県内外から多くの釣り客が訪れる
＝郡上市内

後継者育成の一助に

世界農業遺産への道

清流長良川の鮎

「清流長良川の鮎」の世界農業遺産認定に向けて、流域の県民から大きな期待が寄せられるとともに、いくつかの課題も浮き彫りとなってきた。

中でも、人口減少時代に入り、後継者の育成はあらゆる局面で大きな課題となる。

しかし、世界農業遺産の登録要件の一つは、「sustainable」なシステム

であり、「清流長良川の鮎」を基盤とした地域社会が持続可能であり続け

ることこそ、人口減少時代の後継者育成の解決の一助にもなるであろう。

さらに、世界農業遺産は「進化する遺産」ともいわれ、守り、伝えるだけでなく、利用されることによってその価値が高まることも忘れてはならない。「清流長良川の鮎」の世界農業遺産認定を契機として、次の世代にこの素晴らしい里川のシステムを伝え、さらに地域住民と一体となった推進体制が求められる。

＝おわり＝

長良川流域の多様性 高評価



「世界農業遺産の過去、現在、未来」をテーマに基調講演する世界農業遺産基金代表のバルヴィス・クーハフカン氏。広島市、じょうろくプラザ

国際連合大学上級学長 武内和彦氏
 基調講演「世界農業遺産と長良川流域」

日本は山田川、里山、田舎、人間と自然が互いに歩み寄る共生的な在り方に、世界的に農業遺産の価値を認め、農業遺産の仕組みがもたらす価値の価値を高く評価している。

長良川は、小規模農家を尊重して、多様な土地利用を推進している。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。

長良川が「屋台骨」に

農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。

長良川が「屋台骨」に。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。



「清流長良川の鮎」を世界農業遺産に導こうと意見を交わすパネリストら。広島市、じょうろくプラザ

ハネルティスカッション発言要旨

世界農業遺産国際シンポジウムでは、クーハフカン氏の基調講演のほか、国際連合大学上級学長の武内和彦氏の講演に続いて、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授の八木信行氏、石川県農業政策課長兼里山園芸室次長の清水正雄氏、岐阜県農林政策課長の桂川直人氏によるハネルティスカッションも行われた。クーハフカン氏、武内氏以外の発言の要旨は次の通り。

【八木信行氏】日本の農業、漁業の価値を高く評価するのではなく、世界に誇れる農業、漁業の価値を高く評価する。農業、漁業の価値を高く評価する。農業、漁業の価値を高く評価する。

【清水正雄氏】石川県の能登地域は4年前、世界農業遺産に里山里海が認定された。古来の農業、漁業の価値に加え、日常生活、文化など地域全体で面的な広がりを評価された。

【桂川直人氏】長良川には伝統的な漁法で日本一の鮎がとれ、鯛、和紙など1000年以上の歴史があり、文化がある。鮎資源、自然環境、水産物を育む活動が盛んに行われ、日本三大と呼ばれる清流が保たれている。このサイクルを「長良川システム」と呼んでいる。

国際シンポ 「清流長良川の鮎」世界農業遺産認定に向けて

生態系、農文化、景観美で世界的価値

「清流長良川の鮎」の世界農業遺産認定に向けての理解を深め、価値を高めようという国際シンポジウムが岐阜市本町のじょうろくプラザで開かれた。世界農業遺産基金代表のバルヴィス・クーハフカン氏、国際連合大学上級学長の武内和彦氏が基調講演。世界農業遺産の過去と現在を語り、長良川流域の生物、文化などの多様性を高く評価し、今後に向けての取り組みを促した。

長良川が「屋台骨」に。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。

世界農業遺産基金代表 バルヴィス・クーハフカン氏

基調講演「世界農業遺産の過去、現在、未来」

世界農業遺産(GIA)は、2002年にユネスコの世界文化遺産に登録された。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。農業遺産の価値を高く評価している。

清流の鮎、さらに観光活用を

清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。



水が流るしの中に投げ込んで、清流の鮎を捕獲する国際シンポ関係者ら。広島市八幡町

清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。

清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。

清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。

清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。清流の鮎、さらに観光活用を。